

自治委員に なって



●プロフィール
 敷戸南
 宮崎 洋子さん

自治委員の選考委員さんから「自治委員をしてみませんか」というお話がありました。その時は、ちょうど孫が生まれ何かと忙しい時期でしたが、公務員として働いていた経験もあり自治委員という役割の大切さを理解していました。また、何より地域のために、何か皆さんのお役に立ちたいと思い、引き受けることにしました。

自治委員になられた きっかけは？

家族の反応はどうでしたか？

子どもたちはすでに独立をしていますが、夫からの反対もありませんでした。夫は、むしろ私が自治会活動ができなときは、ピンチヒッターを引き受けてくれる良き理解者でした。

自治会活動を通して 思っていることがありますか？

高齢者の触れ合いなどはありますが、若いお母さんにもう少し手を貸してあげたいです。私自身が自分の子育ての時、地域のお母さん達に助けってもらったの

「人は、消費ばかりしていたら虚しくなる。だから働いて生産的なことをやってほしい」という宮崎さん。地域の方や家族の気持ちを大切にしながら、何か人のためにと前向きな姿勢が伝わってきました。

で今度は子育てをしながら一生懸命働いている若い人達をもっとバックアップしてあげたいと思っています。

女性研究者の たまごさんです！

■大分舞鶴高校は、大分県下唯一の理数科を持ち、文部科学省のSSH(Super Science High school =スーパーサイエンスハイスクール)に指定されています、そこでSSHプロジェクトで課題研究に取り組んだ同校の女子生徒二人に、お話を伺いました。

●プロフィール
 大分県立大分舞鶴高校二年生(理数科)
 丸山 理紗さん・森高 亜弓さん



丸山 理紗さん



森高 亜弓さん

丸山さんは「土の中にいる微生物を使って悪い物質を分解するという課題実験」、森高さんは「ツタを這わして(緑のカートン)地球温暖化を食い止める課題実験」に取り組んだとのこと。

それぞれ実験を終えて、「協力してくださる各大学の先生方のアドバイスもあって、充実した内容となった。高校と大学の境を超えた研究ができたが、時間ももつと欲しかった。」(森高さん)、「授業は覚えることが中心だが、研究は自分で疑問点を見つけ、自分で調べなければならぬので、とても良い経験だと思う。」(丸山さん)と、目を輝かせて答える姿に、進学校のきついカリキュラムながら、その厳しさをむしろ楽しんでる様子が伺えます。

二人とも好きな理科を勉強できる環境に自ら進んできたそうで、将来を今の延長線上に明確に意識して受験に臨もうとしています。以前は「子どもの頃喧嘩した友だち」(丸山さん)や「お姉さん」(森高さん)の存在が勉強を頑張るきっかけになっていたそうですが、今は班の仲間をはじめ、クラスメートの存在そのものが刺激になっているとのこと。

自らが切磋琢磨することの充実感を既に知っている彼女たちの未来が、きつと明るいものになっていくものと信じエールを送りたいと思います。